

2021/10/11

(オマケの英語教室 Arctic hunter ) 書庫版



今朝ふとバックパック(backpack)中を見ると”arctic hunter”と書いてありました。恐らくブランド名でしょう。

「何とかのハンター」

何とかの、と書いたのは意味が分からなかったからです。

それでまたぞろ謎解きゲームを始めました。

Arc は円弧。何故なら arcade(アーケード)が円弧形の屋根を指すのであろう事を知っていたからです

因みにアーケードとは川崎駅前や高円寺駅前の商店街等に見られる商店街に挟まれた通りを雨に濡れずに買い物客がショッピング出来るよう差し渡した円弧形の屋根を指します。

それと arcade の後半の-ade はプロムナード(promenade=遊歩道)に見られる様にどうやら「道」や「通り」を指しているようですし。

でも

「円弧形のハンターって何のこっちゃ？」

それで又考え始めました。

Arc の ar-は art(芸術、芸)やそこから派生した artificial(人工の、例えば artificial intelligence は人工知能です) の語幹-art に近い。

太古の人は、直線ではなく円弧形を描いたり円弧形を使った道具を生み出したりする様になった時、それを art (芸術) と認識し、又自然には無い、人間だからこそ作れる物として artificial (人工の) の概念を得たのかもしれない。

と、話が脇道に逸れてしまいました。

そこで一反整理を試みよう

円弧形、又は芸術、或いは人工の「ハンター」

と並べてはみましたが整理が付かず、却って益々分からなくなりました。

そこでちょっと俯瞰する意味で

「そもそも円弧形だの芸術、人工なんかの抽象的な文言の arctic に極めて具象的な hunter

なんていう文言が何故カップリングしているんだ？

バックパックもハンターも極めて具象的なのに、そんな抽象的なネーミングを組み合わせる筈がなかろう。だとすれば arctic は何か具体的な物の名前じゃないとおかしい」

それで今度はバックパックの属性について考えてみました。

曰く「軽量、コンパクト、丈夫、防水防滴、自然の悪条件対応」

是でハンターと結びつき易いのは何か？

しかしどれもこれも狩りに行くにはマストのような気がします。どれ一つとして落とせない。

そこで再び視点を変えて

「そもそもこのネーミングをした人は何をイメージして arctic と着けたのか？」

を考えてみる事にしました。

ハンター、狩人、マタギ。

んっ、マタギ？

そのマタギ迄来てふとイメージしたのが

「マタギは獲物取る迄何日も山の中を彷徨よい歩く。雨が降ろうが雪が降ろうが道があるうがなかろうが」

でした。

(注：以下は多少フィクションです)

そして雨と雪。豪雨と豪雪。地球温暖化。と進んで

「その最前線は？」

北極と南極、グリーンランド。

しかし北極は north pole で南極は Antarctic。グリーンランドは Greenland

「んっ？南極の英単語 Antarctic の中に -arc がある!!」

しかし接頭辞の ant は何を指しているのか？

ant 蟻？ ant 叔母さん？

な訳はない。

又々沈思黙考。

そして長考の末、指した手が

ひょっとして ant が anti (逆らう、逆の) の短縮形なら

X 極の反対が Antarctic (anti-arctic) 南極

ならその元の X は北極。

で

「Arctic Hunter は北極の地のハンター＝極寒の狩人」

ほんまかいな？